

「海と空―樫野の人々―」(中2)の授業について

1 はじめに

表題の授業をするということで相談を受けました。「道徳の読み物資料では主人公の心情を読み取るのではなく、資料から道徳的価値について考える。」ということをもとに授業展開を考えました。1時間の授業で出す発問は次の通りとしました。

<読み物資料>

内容の理解を深める補助発問を2～3つ

資料から道徳的価値について考える発問を1つ

<生活の振り返り>

読み物資料を踏まえて生活の振り返りから道徳的価値を考える発問を1つ

生活の振り返りから道徳的価値を考えることが難しい場合は、自分に引き寄せて考える発問を1つ

2 授業展開

(1) 教材名 海と空―樫野の人々― / (2) 主題名 国際社会の一員

(3) 内容項目 C-(18) 国際理解、国際貢献

(4) ねらい 同じ世界に生きる人間として、国や時代を超えて助け合う重要性を理解し、世界平和と人類の発展に貢献しようとする実践意欲を育てる。

(1)～(4)は指導書より

(5) 授業展開

<導入>

質問 今、ロシアとウクライナが戦争状態にあることを知っていますか。

→ ロシアとウクライナの位置が分かる地図を提示すると良い。

今日はイラン・イラク戦争のさなか、イラン在留の日本人がイランからどのように脱出したかという資料から考えます。

まず、次のことを簡単に説明する。写真や地図があるとよい。

イラン・イラク戦争が勃発した直接の原因、戦争の経過、終末、結果

イラン在留の日本人がイラン(首都テヘラン)から脱出しなければならない理由やその時の状況

<イラン・イラク戦争について>

1980年から1988年まで、イラン・イスラム共和国とイラク共和国の間で続いた武力衝突

1980年にイラクがイランへ侵攻したことがきっかけで始まった戦争

1988年国際連合安全保障理事会の決議を両国が受け入れたことで停戦した。

8年間という長期にわたる戦争であった。

(第一次世界大戦は4年間、第二次世界大戦は6年間続いた)

何十万人(50万人～100万人)もの犠牲が出た。

<イランに残された日本人の救出について>

1985年3月17日、イラクは48時間の猶予期限以降にイラン上空を飛ぶ飛行機を無差別に攻撃するという通告を突然出した。世界中がパニックになり、どの国もイランに残された自国民の救出に全力を注ぎました。

ところが、日本は、自衛隊の海外派遣が当時できないことを理由に、日本航空は安全が保証できないところには航空機は飛ばせないということから、日本人救出には至りませんでした。

日本政府はトルコの首相に日本人215人の救援を請うたところ快諾。トルコ航空がイランの首都テヘラン行きのパイロットを募ると、その場にいた全員が手を挙げました。日本人を乗せた最終機はタイムリミット50分前にテヘランを離陸し、ぎりぎりのところで日本人全員が救われました。

テヘランに残された500人のトルコ人たちは、トルコ大使館が用意した車などに分乗し、危険を覚悟で陸路でトルコに到着。このことで、トルコ政府に文句を言ったトルコ人は皆無だったそうです。

<いずれも複数のサイトから編集>

<資料からの発問>

発問1 (簡単に短時間で扱う)

p54 ㊦16～p55 ㊦1 「どうしても樫野に行ってみなければ…」と思ったのは、なぜでしょうか。

樫野の位置が分かる地図があるとよい。

→ ペアで交流する。全体で交流する。

p55 ㊦1 「エルトゥールル号の顛末を知りたい。」

p54 ㊦9 「なぜトルコ政府が救援機を出してくれたのか。」 二十年以上抱いていた疑問を解くため。

p54 ㊦13 「トルコ人が親日的になった第一の理由として、エルトゥールル号の遭難者を救助した樫野の人々の話があることを知った。」から。

発問2 (簡単に短時間で扱う)

p56 ㊦1～p57 ㊦16 樫野の人々はエルトゥールル号の遭難者をどのように救助したのですか。

p56 ㊦15～㊦16 遭難したトルコ人を灯台と村に運んだ。

p56 ㊦17～㊦18 遭難したトルコ人の冷えた体を温めた。

家々から浴衣を浴衣を集め、濡れた服と取り替えさせた。

一晩中、手や足、背中と体中をこすって温め続けた。

p56 ㊦20～㊦22 この年、漁獲量が減っていましたし、米の値段も上がっていました。だから蓄えた食料もほとんどなかった。… ところが、樫野の人々は、トルコの人たちにありったけの食料を提供しました。

p57 ㊦16 この後、樫野地区の畑には、一個のサツマイモもなく、一家に一羽のニワトリもなかった。

→ ペアで交流する。全体で交流する。

発問3 p56 ㊦1～p57 ㊦16 エルトゥールル号の人々を救出した樫野の人々の思いは、どんなものだったでしょうか。

「p57 ㊦16 この後、樫野地区の畑には、一個のサツマイモもなく、一家に一羽のニワトリもなかった。」ことにも触れて考えさせたい。

→ 班で交流してから、道徳ノート「かんがえてみよう」に書く。

→ 全体で交流する。

<自分に引き寄せて考える発問>

発問4 国際人として生きていくために、私たちはどんなことを大切にすれば良いと思いますか。

→ 班で交流してから、道徳ノート“自分に+1”に書く。

→ 全体で交流する。

3 おわりに

「本当に全員が取り組んでいるか」というのが最近の私のテーマです。自分の考えを書くとき、課題(発問)の内容は理解できているが、何を書いているのかよく分からないという生徒がときどきいます。これを解決するために、班で交流してから書いたり、班で解決してから自分の言葉で書いたりしてはどうかと考えています。

ぜひ、実践していただき、成果と課題を共有したいものです。